

JICA 横浜 海外移住資料館

館報

平成 22 年度



はじめに

JICA 横浜 海外移住資料館は、海外移住者を、新天地で新たな文明形成に参画したいわば「国際協力の先駆者」ととらえ、資料、文献、写真等の展示をとおして彼らの歩んだ道を日本人の歴史の中に正しく位置づけることをめざしています。幸いにして平成 14 年 10 月の開館以来、累計 235,610 名の皆様にご来館いただくことが出来ました。

平成 22 年度においては、四度の特別展示の他、公開講座をはじめとするイベントの開催にも力を入れました。来場者アンケートの回答ひとつひとつからは、通常の展示だけでは伝わりにくい、海外日系人の方々がたどってきた歴史の重みや現在の日系社会の姿を、より深く理解していただくことが出来たのではないかと、との実感を得ることが出来ました。アンケートのいくつかをご紹介しますと思います。

「純粋で、少し複雑な環境に生まれた子供たちからのメッセージは非常に心に訴えかけられるものでした」(『私のせかい 自分のメリーとは』より)

「両親の祖国の戦後、戦前、戦中のアメリカ社会で、日系二世がどのように見られたか、どのように思って活動したかが良く分かった」(『日系二世兵士の見た終戦直後の日本』より)

「杉本氏の作品の高い芸術性、迫力ある訴える力、収容所の様子を雄弁に語っている。」(『収容所にて ～第二次大戦下の北米日系人～ ヘンリー杉本作品展』より)

そのほかにも、今年度は新たにペルー日系人協会から収蔵写真等を提供いただくことができ、来年度中にも、当資料館のホームページ上の他資料館との情報ネットワークをさらに充実させることが出来る見込みです。

2011 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災の影響により、当館は開館以来はじめて、約 1 カ月半にわたり臨時休館いたしました。この間、世界から寄せられた日本応援の声や、日系社会からの心温まるお見舞いに当館も力を得、歴史を伝えることの意義を再認識し、5 月より開館時間を短縮して再開しました。

当資料館は、今後とも所蔵資料の整理・保存方法の改善や、教育プログラムの更なる充実、他の日系人博物館等とのインターネット上での連携促進などの業務に、総合的に取り組んで参ります。引き続き、皆様のあたたかいご指導、ご鞭撻、またご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

平成 23 (2011) 年 6 月

独立行政法人国際協力機構
横浜国際センター所長
海外移住資料館館長
吉 浦 伸 二

目 次

1.	展示イベント等	1
2.	情報システム	7
3.	資料等情報整備	8
4.	教育普及活動	9
5.	広報活動	15
6.	運営委員会及び学術委員会	17
7.	アンケート調査	20
8.	各種実績等	21

1. 展示イベント等

特別展示1 「移民の暮らし」ー海外日系社会における「食す」「伝える」「楽しむ」「祝う」

期間：3月9日（火）～5月8日（土）

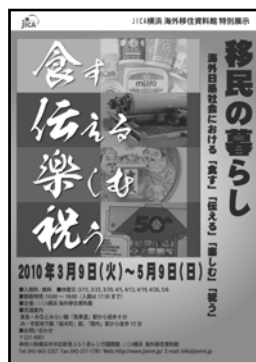
主催：JICA 横浜 海外移住資料館

付帯イベント：4月11日、25日 ギャラリートーク（資料館業務室 小嶋）

開催期間中入館者数：3,809名

概要：日本とは文化や習慣の異なる海外に移り住み、そこで暮らすことになった日本人移民の暮らしとは、いったいどのようなものだったのか。海外の異なる環境の中で、食事や言葉、娯楽やコミュニティ活動等で直面した課題に、どのように対処してきたのだろうか。日本を離れても、彼らの生活に欠くことのできないものとは何だったのか。また、移住先の慣れない環境下で、日本人移民はどのように適応してきたのだろうか。

本展示では、「日系コミュニティ」に対するこのような問いをテーマに、①食す、②伝える、③楽しむ、④祝う、の4つのキーワードを設定し、セクションを構成。未公開収蔵資料（特に標本類）を中心とした展示内容とした。



展示の様子「食す」



展示の様子「伝える」

特別展示2 在日日系人の子ども絵画コンテスト「私のせかい 自分のメリーとは」作品展

期間：5月25日（火）～6月27日（日）

主催：日本財団日系留学生会

協力：JICA 横浜 海外移住資料館、日本財団、財団法人海外日系人協会

付帯イベント：5月30日 日系留学生による公開シンポジウム「日系人の子どもたちはいま」

開催期間中入館者数：3,538名

概要：日本財団の留学生として日本で学ぶ日系の若者たちが主催し、日本で暮らす外国籍の子どもたちを対象に、平成 21 (2009) 年秋に開催された第 1 回絵画コンテスト「私のせかい 自分のメリーとは」の応募・受賞作品を展示した。このコンテストは、在日外国人の子どもたちに、絵を通じて自分たちの世界を表現してもらい、自己表現の大切さ、楽しさに気づいてもらおうと企画されたものである。

本展示では、日本で暮らす外国籍の子どもたちの「メリー（楽しいこと）」が表現された作品コンテストの応募作品、計 800 点を展示。また、付帯イベントとして、「在日日系人の子どもは今」と題し、日系留学生をパネリストに迎えセミナーを開催した。



青年の部優秀賞作品 (Sayuri Shishido, Colombia)



少年の部優秀賞作品 (Hikari Sakugawa, Brazil)

特別展示 3 「日系二世兵士の見た終戦直後の日本」

期間：8月13日（金）～10月11日（月）

主催：JICA 横浜 海外移住資料館

開催期間中入館者数：6,504名

概要：平成 20 (2008) 年 8 月、資料館学術研究プロジェクトによるハワイ調査の際、日系二世である元アメリカ陸軍情報部 (Military Intelligence Service: MIS) 兵、リチャード・H・コサキ氏より寄贈を受けた、自身が昭和 20 (1945) 年 11 月～昭和 21 (1946) 年 11 月まで日本に駐留していた際に撮影した終戦直後の日本の風景写真約 70 点を展示すると同時に、前述プロジェクトによるコサキ氏およびハワイ日系人史についての解説パネルもあわせて展示した。

コサキ氏の写真は、当時としては珍しいカラースライド・フィルムで記録された貴重な資料であり、占領下の東京や空襲で瓦礫となった大阪市街地、戦火を免れた地方の風景、たくましく生きる人々の姿を写した写真は多くの来場者に好評を得た。また一部の写真については、現在の日本の様子と比較できるように展示し、終戦記念日にあわせて、二世兵士が見たファインダー越しの風景を公開し、戦争の狭間で生きた日系アメリカ人の存在について広く市民に考える契機とした。





展示の様子

特別展示4 「収容所にて ～第二次大戦下の北米日系人～ ヘンリー杉本作品展」

期間：1月22日（土）～3月11日（金）

主催：JICA 横浜 海外移住資料館

付帯イベント：1月23日 ギャラリートーク（和歌山市民図書館 中谷智樹氏）

開催期間中入館者数：3,560名

概要：第二次世界大戦中に収容所生活を余儀なくされた日系人たちの様子を生々しく描写した、ヘンリー杉本の絵画作品展を開催。日米2つの祖国の狭間で生きた一世と二世の苦悩が描かれた作品展を通じ、アメリカへの日本移民の歴史、日系アメリカ人の存在について考える契機を提供した。

展示作品は、和歌山市民図書館に収蔵されているもので、1月23日には、和歌山市民図書館より中谷智樹氏を迎え、ギャラリートークを開催。また、1月27日には大橋建一和歌山市長も来館され、本展示を見学された。

本展示は3月21日まで開催予定であったが、東北地方太平洋沖地震の影響により、開催期間を短縮した。



中谷氏によるギャラリートーク



大橋建一和歌山市長来館

イベント1 「ミュージアム・クイズラリー よこはま 2010『ヨコハマ再発見』」

期間：7月17日（土）～8月31日（火）

概要：毎年夏休み期間中に開催しており、平成22年度も海外移住資料館を含む周辺地域の16施設で開催された。

参加者数：243人

イベント2 「海外移住資料館・移民カルタで遊ぶ夏休み子ども向けイベント」

期間：8月18日（水）～8月19日（木）

概要：移民カルタで遊ぶ子ども向けの二つのイベント「かながわ子ども・子育て支援月間 移民カルタで遊ぼう！」と「子どもアドベンチャー2010 カルタで遊んでタイムスリップ！」を同時開催。前者は神奈川県保健福祉局が実施する「かながわ子ども・子育て支援月間」の一環として、後者は横浜市教育委員会の実施する「子どもアドベンチャー」の一環として開催。移民カルタを利用して、日本人移住者の歴史や経験を楽しく学ぶ場を提供した。参加者へは、展示場で撮った写真を葉書にしてプレゼントした。

参加者数：81人

イベント3 「鑑賞支援ロボット「ロボビー」がやってくる！」

開催日：8月22日（日）

概要：埼玉大学理工学研究科、同大学教養学部と東京工科大学メディア学部が共同で開発を進めている鑑賞支援ロボット「ロボビー」の実演実験を兼ねたイベントを開催。過去数回にわたり、本開発実験に対する協力を行ってきたが、今回は「ロボビー」が展示場内で来館者へ実際に展示案内を行うというデモンストレーション実験を実施した。

イベント4 「ドキュメンタリー映像上映会」

期間：12月18日（金）～12月26日（土）、1月4日（火）～2月27日（月）

概要：日系社会の歴史と今を描いたドキュメンタリー映像上映会を開催。プログラムをA、Bに分けて上映した。

《上映作品タイトル》

(A-1)BIG DRUM: Taiko in the United States

（北米太鼓の響きーコミュニティ作りと日系アイデンティティー 30分、2005年全米日系人博物館制作）

(A-2)Textured Lives: Stories from the Plantations of Hawaii

（織りなす物語ーハワイに渡った日本人女性と着物ー 50分、2010年全米日系人博物館制作）

※以上2点は全米日系人博物館より入手（パネル展示併設）

(B)日本人ブラジル移住100周年記念「100年目のプレーボール」

上映スケジュール	
上映時間	上映日
19時	12月18日(金)
19時	12月19日(土)
19時	12月26日(土)
19時	1月4日(火)
19時	1月11日(火)
19時	1月18日(火)
19時	1月25日(火)
19時	2月1日(火)
19時	2月8日(火)
19時	2月15日(火)
19時	2月22日(火)
19時	2月29日(火)

(100分、2008年BSジャパン制作)

入場者数：

(A)入場者数：209名（上映回数：70回）(B)：入場者数：92名（上映回数：12回）

公開講座1 講演「川柳を習い日本が近くなり— 絵本・川柳・写真屋さんの在米39年 —」

日時：6月4日（金） 14:00～16:00

講師：サニー関氏（作家・イラストレーター）

概要：在米39年のサニー関氏を迎え、戦後のアメリカ移民の体験を、川柳、写真館、日本民話をキーワードに語っていただいた。川柳では、羅府新報と川柳つばめ吟社の活動を中心に20世紀最後の四半世紀のロサンゼルスでの川柳活動を、写真館ではレンズを通して見た移民社会アメリカを、日本民話では絵本で日本民話を世界に伝える夢と努力について、講師の実体験や、講師を取り巻く日系社会の様子に基づいた内容となった。

受講者数：29名



公開講座2 講演「在日日系人による送金 歴史と現状」

日時：6月19日（土） 14:00～16:00

講師：木本結一郎氏（キョウダイグループ代表取締役）

概要：本講座では、在日ペルー人の送金と生活上の種々の便宜のため、在日ペルー日系人社会が中心となって創立したKYODAI（キョウダイ）という会社組織20年の歴史を軸に、日本から中南米への送金を通じて見えてくる日系人の現状についてお話いただいた。

平成2（1990）年6月に出入国管理および難民認定法、いわゆる入管法改正以降からブラジルやペルーをはじめとした中南米諸国から来日する日系人数が増加し、30万人以上といわれる在日日系人の現状につながっていく。

その入管法改正から20年目の節目にあたる今年、在日日系人の歴史と現状を、当事者である日系人側の視点から振り返り、送金事業、小売り事業、通信教育事業等を通じた、今後の日系社会支援のあり方についても言及いただいた。

受講者数：32名



公開講座3 講演『「ユキエ」と「レオニー」— 映画のなかの海を渡った女性たち—』

日時：9月26日（日） 14:00～16:00

講師：松井久子氏（映画監督）

概要：彫刻家イサム・ノグチの母レオニー・ギルモアの波乱に満ちた人生を描いた映画「レ

オニー」の監督・松井久子氏を講師に迎え、公開講座を実施。同監督の過去作品「ユキエ」（米国人と結婚し、その後の人生を米国で過ごした日本人女性を主人公とする映画）と、平成 22（2010）年 11 月に公開された「レオニー」という作品を通じて、社会の中で埋もれがちな無名の一般女性を、さまざまな形で表現してこられた松井久子監督の視点から、海を渡った素敵な女性たちの歴史と活躍を語っていただいた。



付帯イベントとして、当日 12 時 30 分より資料館見学ツアーを開催。初めて資料館を訪れる方が多く参加され、日本人の海外移住の歴史について概観した。

受講者数：62 名

付帯イベント参加者数：15 名

2. 情報システム

1) 情報展示ネットワークプロジェクト（情報展示）コンテンツ拡充

特別展示「移民の暮らし」

3月9日から5月8日まで資料館にて開催された特別展示「移民の暮らし」の展示内容を記録するものである。展示品の様子等を紹介する内容で、12月8日に一般公開した。

URL:http://www.jomm.jp/imin_kurashi/index.html



2) 情報検索システム

(1) 情報検索システム運用

図書資料室（海外移住）で実施される各種レファレンスサービスと連携し、当資料館の収蔵する資料について情報を整備し、情報検索システムを通じて館内、館外へ検索サービスを提供した。平成22年度末時点登録数：39,001件（うち図書類：30,918件、標本類ほか：8,083件）。

URL:<http://search.jomm.jp/>

(2) シソーラスプロジェクト

情報検索システムでの検索効率向上を目的とし、海外移住に特化した類義語辞典の充実を図った。キーワードリストから類義語のグループを作成し、随時情報検索システムに投入した。平成22年度末時点登録数：34,042グループ（203,003語句、一般的な読替え語句含む）。

3) 海外移住資料館 web ページ新規コンテンツ（キッズコーナー）の追加

平成21(2009)年に児童生徒向けコンテンツとして公開した『モルフィーちゃんの移民学習コーナー～親子でまなべる海外移住の歴史～』では、「移民カルタ」「移民の歴史クイズ（漢字問題、ビジュアル問題）」の二つのコンテンツで構成されているが、今回新たに「移民の歴史クイズ（ビジュアル問題）」にクイズカテゴリーを追加し、内容の充実を図った。

3. 資料等情報整備

1) 資料の受入・収集

海外移住に関連する図書、標本等各種資料を寄贈、購入、取得等の方法で収集を行った。資料受入は1,263件。登録総件数は40,133件。

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
寄贈	264	76	256	16	612
購入	109	2	43	151	305
取得	67	80	32	19	198
移管	0	0	0	0	0
論文タイトル登録	—	—	122	26	148
受入合計	440	158	453	212	1,263

2) 資料の整理

(1) 伊藤一男関連資料

平成21年度から実施されている学術研究プロジェクトにおいて、「文献史料の拡充と学術的活用」を担当されている糸井学術委員と柳田学術委員が、5月から7月にかけて伊藤一男（読売新聞記者、『北米百年桜』著者。寄贈資料は北米日系人移住者関連資料）資料の状況視察を実施した。8月から予備整理作業を開始し、平成23年度以降も引き続き、整理作業を進めていく予定である。

(2) 移住申込書整理作業

旧海外移住センター所蔵移住申込書について、柳田学術委員の指導の下、ファイル解体、データシート作成、挿入作業、データシート記入、スキニング等の整理作業を行った。また、宮城県国際交流協会旧蔵資料に含まれる移住申込書についても、整理作業を開始した。

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
ファイル解体	212	43	499	289	1,043
データシート作成	212	0	622	418	1,252
挿入作業	212	0	622	418	1,252
データシート記入	166	150	493	383	1,192
スキャン(件数)	517	350	0	261	1,128
スキャン(ファイル数)	11,997	14,366	0	4,152	30,515

(3) 図書資料等整理

登録済み図書資料を対象とした書誌情報の追加入力を行った(2,842件)。

4. 教育普及活動




1) 教育プログラムの概要

海外移住資料館では、日系移民に関する資料の収集、保存、展示、研究活動のほか、設立趣旨にあるように移住者たちの足跡や役割について多くの人々に伝え、理解を深めてもらう役割を担っている。また、特に若い世代の人々に、多文化共生社会を生きる一員として、あるいは開発教育の視点からも、一人ひとりが移住者からのメッセージを受け止めてもらいたいとの思いから、開館当初より、教育普及活動に積極的に取り組んでいる。

現在、日本においても外国から多くの人々が移り住み、多文化社会が進展してきており「多文化共生」が教育の分野においても大きな課題になっている。そこで、日本人の海外移住の歴史と日系人の生活について展示を行っている当資料館では、そのような課題に応え、教育関係者を対象として、授業案を含む指導者向けの解説書である「学習活動の手引き」作成をはじめとし、教材開発やボランティアによる展示ガイド等、多様な教育プログラムを実施している。

今後、世界の移民人口はますます増加すると予想されている。このような 21 世紀の世界の中で、グローバルな価値の実現をめざして行動できる地球市民としての資質に加え、多文化社会の中で異なる文化を受容、尊重し、共生へ向けて行動できる市民としての資質という両方の育成が求められている。当資料館の教育プログラムを「共生にむけて」社会参加ができる子どもたちの育成のために活用いただければと考えている。

表：海外移住資料館の学習教材

<p>【学習活動の手引き】</p> <p>この手引きには、移民について学ぶことの意義が記され、その意義に沿った、海外移住資料館の展示および各種教材を活用したいくつかの授業構想が含まれている。学校の先生方はもとより、NGO/NPO 関係の方々への授業づくりやワークショップの際の参考として利用できる。</p>	
<p>【移民カルタ】</p> <p>日本人の海外移住の歴史、移住者の生活や心情、日本に住む日系人の生活や思いなど、子どもたちに知って欲しい移民に関するさまざまな事柄を、遊びを通して楽しみながら学ぶことができる。本教材は外部への貸出を行っている。</p>	
<p>【紙芝居】</p> <p>絵や写真、そしてわかりやすい言葉で書かれた物語を通じ、移住者の歴史的経験や心情、日本に暮らす日系人の生活や思いを共感的に理解することができる。全 4 種類あり、外部への貸出を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> (上段左) 海を渡った日本人 (上段右) カリナのブラジルとニッポン (下段左) ハワイに渡った日系移民 (下段右) 弁当からミックスプレートへ 	

【いみんトランク】

いみんトランクは、国際的な人の移動から多文化共生を学ぶことのできる教材として、また、日本と世界をつなげていく教材として、移民に関する授業や事前学習のサポートを目的に貸出している。移住者の歴史や経験、貢献などにかかわるハンズオン教材として、以下の教材を用意している。

- ・野菜山車（画像・トピックシート有）
- ・ハワイ移民労働着
- ・弁当缶
- ・笠戸丸画像
- ・パールハーバー当日の新聞
- ・太平洋戦争終戦を伝える新聞
- ・さとうきび
- ・ミックスプレート（トピックシート有）
- ・移住斡旋ポスター
- ・ジュート
- ・コショウ
- ・綿花
- ・コーヒー
- ・アマゾンでも栽培されている野菜
- ・アマゾンや日系人の貢献に関する情報（資料）
- ・アマゾンを守るエコ農法（朝日新聞記事）
- ・アマゾン移住に関する概要・年表（資料）
- ・サクラ醤油
- ・ハワイ盆踊り手ぬぐい
- ・ロコモコ（トピックシート有）（※）
- ・スパムセット
- ・Tシャツ（日系コミュニティのイベント等で使用されたもの）
- ・ブラジルの和菓子（まんじゅう、あんぱん、詰め合わせ、もち、金澤製菓画像。トピックシート有）（※）
- ・ブラジル南米神宮のお守り（南米神宮画像、トピックシート有）（※）
- ・外国人登録者数推移（資料）
- ・世界地図
- ・ハワイのビッグファミリー（画像）

（※印の教材は平成22年度に製作・追加）

これらの教材を实际見て、手に取ることで、日本人移民の歴史と経験について何かを感じ取り、学習効果が高まることを期待している。



【ハワイ移民労働着：ハナハナウェア】



【ミックスプレート、弁当缶、さとうきび】



【パールハーバー当日の新聞】



【ブラジルの和菓子】

【定点解説キット】

日本からの移住者が運んだトランクを再現したもの、当時の移住先国での暮らしを紹介するものなど、10のキットがある。直接体験を通して展示をより実感して理解することが可能となる。本キットは、常設展示案内時に使用している。

- ・サトウキビ畑の生活・仕事（麦わら帽子、手ぬぐい地の帽子、軍手、写真パネル等）
- ・ミックスプレート（写真パネル）
- ・スーツケース（写真カード入小箱、トランク等）
- ・移住物語（写真アルバム、複製パスポート）
- ・花と製品あてゲーム
- ・農作業具（写真パネル）
- ・日系商店・萬屋（萬屋の品揃えアルバム、エプロン等）
- ・日系人の食卓（写真アルバム）
- ・イグアス（空撮写真、アルバム等）
- ・宝さがし（中高生向写真カード、ゾーンマップ）



【映像教材】

実際にブラジルへ移住した人々のインタビューを編集したもの、日本人のアマゾン移住に関連するものなど、移住に関する映像教材。以下5種類があり、外部への貸出も行っている。

- ①DVD「子供たちの百年 ブラジルに渡った少年少女は、今！」
- ②DVD「アマゾンに挑んだ草創の日本人」
- ③DVD, VHS「海外移住資料館 われら新世界に参加す」
- ④DVD「夢と希望を運んだ船 ～移住船での暮らし～」
- ⑤DVD「海外移住資料館」

【学習シート】

子どもたちを展示資料へ導き、作業を通して展示のねらいにあった見学を支援するための学習教材。これら学習シートの問いに答えながら見学することにより、海外移住の歴史や、日本人移住者の努力、貢献などを学ぶことができる。

【パワーポイント教材】

海外移住の歴史、移住者の貢献、経験、さらに日本における在日外国人の状況にも思いを寄せられる内容となっている。対象は小学生以上。1時間以上の見学時間を予定している学校関係者を中心に、要望に応じて活用していく。

2)教育プログラムの実施

教育機関の団体入館児童・生徒、学生を主な対象として、ガイダンス（概要説明）、オリエンテーリングシートを使用したプログラム、質問事項への対応等を実施した。本年度の教育プログラム実施件数は120件、総受講者数は4,832名となった。四半期毎の実施教育機関は以下のとおり。



【教育プログラム実績】

	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度計
件数	49	29	31	11	120
総受講者数	2,350	912	1,244	326	4,832

※件数は、実際にプログラムを実施した数。同じ教育機関が複数回受講したケースも有り。

【教育プログラム受講教育機関】

(1) 第1四半期：

(中学校) 修徳学園中学校、弘前市立津軽中学校、志賀町立志賀中学校、伊勢市立城田中学校、関東学院中学校、八戸市立市川中学校、仙台市立吉成中学校、名張市立赤日中学校、伊賀市立青山中学校、横須賀市立北下浦中学校、南越前町立今庄中学校、座間市立座間中学校、横浜市立潮田中学校、横須賀市立浦賀中学校、東京学芸大附属国際中等教育学校、座間市立相模中学校、平塚市立中原中学校、横須賀市立鴨居中中学校、横須賀市立鴨居中学校、横浜女学院中学校、平塚市立浜岳中学校、品川区立戸越台中学校、桑名市立陽和中学校、平塚市立大洋中学校、藤嶺学園藤沢中学校

(高等学校) 修徳学園高等学校、神奈川県立鶴沼高等学校、東京都立文京高等学校、東京都立葛飾総合高等学校、神奈川県立三浦臨海高等学校、橘学苑高等学校、神奈川県立茅ヶ崎高等学校、東京学芸大学附属高等学校大泉校舎、神奈川県立神奈川総合高等学校、慶應義塾高等学校、山形県立加茂水産高等学校、横浜市立横浜商業高校、神奈川県立相原高等学校、岡山県立岡山一宮高等学校、京都府立兔道高等学校

(大学等) 群馬県立女子大学、東洋英和女学院大学、恵泉女学園大学、大妻女子大学、東京外国語大学在日外国人交流ネットワーク AMIGOS、神奈川県立保健福祉大学、東海大学、警察大学校

(その他) 日本語学校生徒研修第一陣

(2) 第2四半期：

(小学校) 横浜市立丸山台小学校、横浜市立瀬谷第二小学校、横浜市立境木小学校、

(中学校) 平塚市立江陽中学校、横浜市立橋中学校、関東学院六浦中学校

(高等学校) 市原中央高等学校、神奈川県立七里ヶ浜高等学校、神奈川県立大磯高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、横浜市立戸塚高等学校、東京都立大島海洋国際高等学校、神奈川県立湘南高等学校、横浜隼人高等学校、文教大学附属高等学校、栃木県立鹿沼東高等学校、清泉女学院高等学校、神奈川県立横浜緑ヶ丘高等学校

(大学等) 多摩大学、玉川大学、大妻女子大学、名古屋外国語大学、松蔭大学、神奈川大学

(その他) ブラジル日本語普及センター訪日研修団、川崎市教育委員会、「横浜の時間」リーダー養成講座「国際教育研修」、横浜市立小学校長会国際理解教育研究部会(教員)

(3) 第3四半期：

(小学校) 横浜市立星川小学校、横浜市立深谷小学校、横浜市立上寺尾小学校、横浜市立大鳥小学校、横浜市立並木第四小学校、浜松市立瑞穂小学校

(中学校) 逗子開成中学校、東京学芸大学附属国際中等教育学校、横浜市立本郷中学校(支援)、中野区立第五中学校

(高等学校) 神奈川県立柏陽高等学校、神奈川県立横浜緑園総合高等学校、神奈川県立横須賀明光高等学校、国立富山高等専門学校、神奈川県立寒川高等学校、神奈川県立横浜翠嵐高等学校、日本大学高等学校、神奈川県立上溝高等学校、神奈川県立神奈川総合高等学校、静岡県立御殿場南高等学校、神奈川県立鶴見総合高等学校、大分県立安心院高等学校、川崎市立橘高等学校、神奈川県立川崎高等学校

(大学等) 共立女子大学、神奈川大学、創価女子短期大学、中央大学、恵泉女学園大学、白百合女子大学

(その他) 学童センターみらい

(4) 第4四半期：

(小学校) 横須賀市立野比東小学校、横浜市立下郷小学校、横浜市立釜利谷東小学校

(中学校) 横浜市立富岡中学校、世田谷区立砧南中学校

(高等学校) 八洲学園高等学校、クラーク記念国際高等学校

(大学等) 文京学院大学、富山大学、慶應義塾大学

(その他) 日本語学校生徒研修第二陣

【プログラム例 大学生向け (2時間)】

- ①日本人の海外移住史概要、現在日本に暮らす日系人の現状について解説
- ②オリエンテーリングシートを活用した資料館見学
- ③改正入管法と日系人、集住地域と日系人についてリアクションペーパーの記入



【プログラム例 高校生向け (2時間)】

- ①教材体験 (移民カルタ、紙芝居、ハワイ移民労働着試着)
- ②日本人の海外移住について解説
- ③オリエンテーリングシートを活用した資料館見学



【プログラム例 中学生向け (1.5時間)】

- ①日本人の海外移住、横浜と海外移住との関わりについて解説
 - ②オリエンテーリングシートを活用した資料館見学
- ※来館前の事前学習として、資料館のDVD教材を視聴

3) ボランティア管理運営

(1) ボランティア活動の概要

当資料館では、以下の資料館業務をボランティアが実施している。

①展示案内ボランティア活動 (ガイドボランティア)

常設展示室、企画展示室内での展示案内を中心に活動している。平成22年度末時点で、登録者数は22名。なお、展示案内ボランティアの配置状況は以下のとおりとなっている。

- ・ 第1四半期：267人配置（77開館日、平均3.5人配置）
- ・ 第2四半期：276人配置（79開館日、平均3.5人配置）
- ・ 第3四半期：275人配置（76開館日、平均3.6人配置）
- ・ 第4四半期：217人配置（58開館日、平均3.7人配置）

②資料整理ボランティア活動（サポートボランティア）

当資料館のイベント開催時のスタッフとして、また収蔵資料整理業務において各種作業に携わっている。平成22年度末時点で、登録者数は11名。なお、今期は5名の方に活動いただいた。

(2) ボランティア研修会等の実施

当資料館では、ボランティアのスキルアップを目的とした研修を実施している。また、当資料館業務にボランティアとして協力される方の意見を反映し、活動を円滑に進めていくために、以下のとおり連絡会議を実施。今後の活動について意見交換を行った。平成22年度はそれぞれ以下のとおり実施した。

①ボランティア研修会

- ・ ボランティア研修会1
日時：4月12日（月）
内容：「オーストラリア移住について」長瀬威氏（資料館ボランティア）
「日系人定義の変遷について」小嶋茂（資料館業務室）
- ・ ボランティア研修会2
日時：4月12日（月）15:00～16:00
内容：「JICA事業紹介」米林徳人（JICA横浜 研修業務第二課（当時） 課長）
- ・ 映画「Gaijin」（日系ブラジル人三世チズカ・ヤマザキ監督）上映
日時：9月14日（火）16:00～17:50
- ・ 鶴見フィールドツアー
日時：10月31日（日）14:00～16:00 担当：小嶋茂（資料館業務室）
- ・ ブラジル調査報告会
日時：11月16日（火）16:00～17:00 講師：小嶋茂（資料館業務室）
- ・ ボランティア研修会3
日時：12月7日（火）15:00～17:00 講師：大久保邦子氏（ボランティアコーディネーター）
- ・ ボランティア交流会（入間市博物館）
日時：2月6日（日）

② ボランティア連絡会議

- ・ 第1回連絡会議 5月24日実施 参加者：19名
- ・ 第2回連絡会議 8月11日実施 参加者：21名
- ・ 第3回連絡会議 1月20日実施 参加者：16名

5. 広報活動

1) 広報紙「海外移住資料館だより」発行

当資料館広報紙として「海外移住資料館だより」を、平成22年度は3回発行。巻頭特集、海外移住探検隊などの各コーナーでは、特別展示等に関わりの深い内容を取りあげ、展示及び収蔵資料を紹介するだけでなく、その他関連の話題を紹介。発行部数10,000部。

主な頒布先は、都道府県国際交流課および国際課、教育委員会や、各国大使館、図書館、博物館、神奈川県立高校、横浜および川崎市内小中学校、国際教育研究協議会加盟校、外国人集住都市の国際交流協会など、約2,500件。その他、常設展示スペース等で随時配布している。

No.	発行	コンテンツ
20	2010年 8月	<ul style="list-style-type: none"> 海外移住探検隊：日系二世兵士の見た終戦直後の日本 占領下の日本を記録した日系二世兵士 リチャード・H・コサキさんに聞く
特集号	2010年 12月	<ul style="list-style-type: none"> 解体！海外移住資料館 遠く海を渡った日本人は新天地で新たな文明形成に参画した 海外移住探検隊：オススメ！とことん活用法
21	2011年 3月	<ul style="list-style-type: none"> 収容所にて～第二次大戦下の北米日系人～ ヘンリー杉本作品展 海外移住探検隊：収容所生活を描いた画家ヘンリー杉本ってどんな人？和歌山県と海外移住



No.20



特集号



No.21

2) 一般広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当資料館の入館者数増を目指し、地域で行われるイベント等への参加、広報媒体への掲載など、以下のとおり実施した。

(1) 広報媒体の活用

横浜高速鉄道みなとみらい線馬車道駅ホームに電飾看板掲出（1年間）、同 みなとみらい駅改札コンコース内インフォボードに広告掲出（1年間）／横浜市交通局観光周遊バス「あかいくつ」車内モニター広告掲出（1年間）

(2) 外部媒体への掲載

横浜市・神奈川新聞 雑誌「横濱」／サンケイリビング新聞・横浜南版&横浜東版／「シティリビング」横浜版／朝日新聞折込紙「定年時代」（神奈川版、東京版）／朝日新聞「ヨコハマ・ウォーキングマップ」／銀座タイムス／ぱど／Mercado Latino 6月号／横浜シーサイダー／FM 横浜「STATION BREAK」／東京書籍出版 新しい書籍 6／横浜ベイシティ交通マップ／横浜ウォーカー

3) 開催広報

JICA 横浜が行う広報事業等と連携しつつ、当資料館常設展示および企画展示、特別展示、公開講座、その他イベントに関する広報活動を積極的に行うため、広報素材作成と頒布、表示類の作成、プレスリリースの配信等、適宜開催広報を行った（NHK 横浜支局、ケーブルシティ横浜、FM ヨコハマ、神奈川新聞、毎日新聞、読売新聞、朝日新聞、産経新聞、東京新聞、県政記者クラブ、横浜市政記者室、各種イベント広報 web サイト等）。また近隣商業施設等と連携し、当資料館での特別展示告知依頼を実施した。

4) 海外移住資料館「友の会」

海外移住資料館「友の会」は、「日本の海外移住の歴史」や「日系人」、「多文化理解・共生」などのテーマに興味・関心のある方々へ関連情報を発信するとともに、資料館利用者数の増加を図ることを目的に設立された。

活動内容は海外移住資料館で実施する事業やイベントの案内、海外移住の歴史や日系人、多文化理解といったキーワードに関連する情報の発信、モニタリング等となっている。情報発信のツールとして、メールマガジンを利用し、平成 22 年度は計 14 回配信した。メールマガジンは月 1 回の配信を基本とし、イベント開催等に併せて随時号外を配信している。

会員登録には、メールマガジンの配信登録を利用し、平成 22 年度末時点で、友の会会員は 585 名（DM 会員：256 名、メール会員：329 名）となり、前年比で約 80%増加した。

6. 運営委員会及び学術委員会

1) 運営委員会

海外移住資料館の運営方針、事業計画、学術事項等運営に関する重要事項について専門的な見地から議論・検討することを目的とし、運営委員会を設置。平成 22 年度は開催実績なし。

【平成 22 年度 運営委員】

運営委員長	吉浦伸二	JICA 横浜所長
学術委員長	飯野正子	津田塾大学学長
委員	糸井輝子	白百合女子大学教授
	杉下恒夫	茨城大学教授
	中牧弘允	国立民族学博物館教授
	山本 匡	東京工業大学大学院特別研究員
	小林正博	JICA 中南米部部長
	渡邊正人	JICA 総務部部長
	早瀬隆昌	JICA 国内事業部部長

2) 学術委員会

海外移住資料館における学術研究に係る企画・実施協議・評価・交流を行うことを目的として、平成 18 年度に海外移住資料館学術委員会を設置した。同委員会は、学識経験者、JICA 横浜所長（海外移住資料館長）、JICA 横浜市民参加協力課課長（資料館運営担当部署）により構成される。

【平成 22 年度 学術委員会開催】

- ・ 第 1 回学術委員会（6 月 11 日）
- ・ 第 2 回学術委員会（7 月 29 日）
- ・ 第 3 回学術委員会（11 月 22 日）
- ・ 第 4 回学術委員会（3 月 4 日）

【平成 22 年度 学術委員】

学術委員長	飯野正子	津田塾大学学長、海外移住資料館運営委員
委員	石川友紀	琉球大学名誉教授
	糸井輝子	白百合女子大学教授、海外移住資料館運営委員
	島田法子	日本女子大学教授
	中牧弘允	国立民族学博物館教授、海外移住資料館運営委員
	森茂岳雄	中央大学教授
	柳田利夫	慶応義塾大学教授
	山本 匡	東京工業大学大学院特別研究員、海外移住資料館運営委員
	吉浦伸二	JICA 横浜所長（海外移住資料館長）
	米林徳人	JICA 横浜市民参加協力課課長

3) 学術研究プロジェクト

学術委員会において企画・検討された以下の3プロジェクトが、平成21年度より実施されており、本年度は2年目を迎えた。学術研究プロジェクトの研究概要は以下のとおり。

(1) 海外移住資料館所蔵文献資料の拡充と学術的活用の探求

概要：海外移住資料館所蔵資料を学術的研究に資するための資料の整理・利用方法を探求し、その結果を助言・提案する。同時に内外にある移民資料の情報を収集・整理し、海外移住資料館の持つ情報の質の向上を図る。海外移住資料館の文献資料活用に関しては、事例的テーマとして「短詩型文学」にかかる文献資料を選択し、整理・利用方法を探求し、結果を助言・提案する。

【プロジェクトリーダー：糸井輝子（白百合女子大学教授）】

(2) ブラジル日系人日本語学習のための移民カルタ教材の開発と実践

概要：ブラジルの日本語学校及び移民系博物館と連携し、ブラジルの日本語学習者のための移民カルタ教材を開発し、教育現場においてそれを活用した実践を行い、その意義と可能性を検証する。

【プロジェクトリーダー：森茂岳雄（中央大学教授）】

(3) 経済不況下における在日日系ブラジル人の実態および社会統合への課題

概要：日系ブラジル人の研究は、「定住」をキーワードに今後のあり方が研究され、第一世代は今の働き方、第二世代は教育問題、定住化現象での社会への参画・社会統合が重要な問題と認識されていたが、今日の急激な経済不況により、職住を失った日系ブラジル人が大量に発生し、このような前提を一気に崩してしまった。このような社会変革のなかでの日系ブラジル人の実態を把握し、今後の展望を検証する。また、現在の厳しいなかにおける定住の場合の社会統合への課題を再度検証する。

【プロジェクトリーダー：山本かほり（愛知県立大学准教授）】

4) 研究紀要の発行

当資料館で行われた学術研究の成果として、研究紀要第5号を発行した(2011年3月発行)。論文題目等は以下のとおり。

『研究紀要 第5号』

【論文】

宮城県国際交流協会旧蔵資料について

— 移住申込書整理作業と関係資料調査の一事例 —

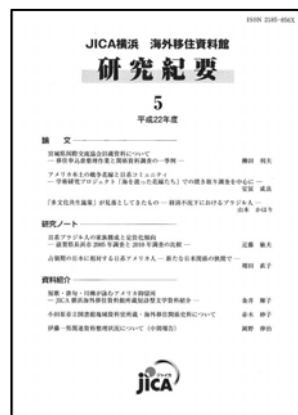
慶應義塾大学教授 柳田利夫

アメリカ本土の戦争花嫁と日系コミュニティ

— 学術研究プロジェクト「海を渡った花嫁たち」での

聞き取り調査を中心に —

嘉悦大学短期大学部教授 安富成良



「多文化共生施策」が見落としてきたもの
— 経済不況下におけるブラジル人 —
愛知県立大学准教授 山本かほり

【研究ノート】

日系ブラジル人の家族構成と定住化傾向
— 滋賀県長浜市 2005 年調査と 2010 年調査の比較 —
佛教大学教授 近藤敏夫

占領期の日本に相対する日系アメリカ人
— 新たな日米関係の狭間で —
日本女子大学非常勤講師 増田直子

【資料紹介】

短歌・俳句・川柳が詠むアメリカ抑留所
— JICA 横浜海外移住資料館所蔵短詩型文学資料紹介 —
白百合女子大学教授 桑井輝子

小田原市立図書館地域資料室所蔵・海外移住関係史料について
目白大学准教授 赤木妙子

伊藤一男関連資料整理状況について（中間報告）
海外移住資料館業務室室長 岡野伸治

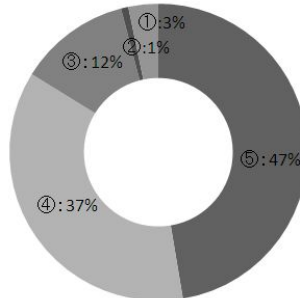


7. アンケート調査

当資料館の常設展示入館者を対象に利用者アンケートを実施した。設問は「展示内容について」「展示ガイドによる展示解説について」「受付での対応について」「海外移住資料館だよりの記事内容について」等を設定した。回答総数は 259 件。5 段階で評価いただいたが、すべての設問において、「とても良い」「良い」をあわせた回答が全体の 75%以上を占め、おおむね良好な回答を得た。

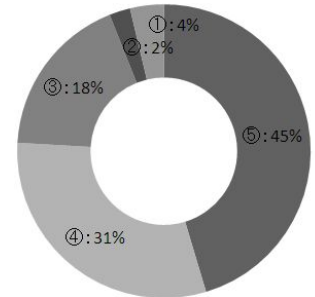
展示の内容

- ⑤(とても良い)
- ④(良い)
- ③(普通)
- ②(あまり良くない)
- ①(良くない)



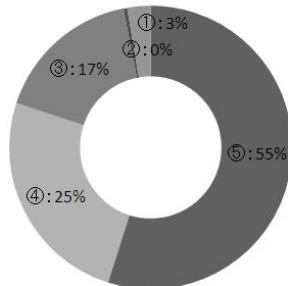
展示ガイドによる展示解説について

- ⑤(とても良い)
- ④(良い)
- ③(普通)
- ②(あまり良くない)
- ①(良くない)



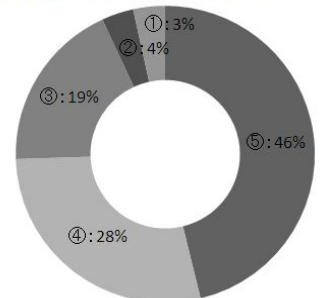
受付の対応について

- ⑤(とても良い)
- ④(良い)
- ③(普通)
- ②(あまり良くない)
- ①(良くない)



海外移住資料館だよりの記事内容について

- ⑤(とても良い)
- ④(良い)
- ③(普通)
- ②(あまり良くない)
- ①(良くない)



8. 各種実績等

1) 各種実績

平成 22 年度業務実績一覧

2010. 4~2011. 3

常設展示スペース	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入館者数	2,084	3,453	2,770	1,702	3,213	2,751	2,409	1,790	1,830	1,775	2,008	746	26,531
(前年同比)	57%	60%	82%	43%	82%	49%	78%	69%	97%	120%	109%	38%	68%
一般	1,398	2,562	1,782	1,348	3,035	2,204	1,955	1,370	1,521	1,647	1,773	663	21,258
学校関係	686	891	988	354	178	547	454	420	309	128	235	83	5,273
15歳未満	158	388	675	145	362	509	246	258	250	140	257	82	3,470
15歳以上	1,926	3,065	2,095	1,557	2,851	2,242	2,163	1,532	1,580	1,635	1,751	664	23,061
個人	1,352	2,495	1,520	1,154	2,935	2,080	1,862	1,144	1,379	1,477	1,595	611	19,604
団体	732	958	1,250	548	278	671	547	646	451	298	413	135	6,927

※開館からの累計： 235,610

教育プログラム実施	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
実施件数	12	21	16	13	7	9	12	8	11	4	6	1	120
実施対象人数	489	1,029	832	319	115	478	370	578	296	86	181	59	4,832

照会対応	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
対応件数	48	34	39	45	51	30	26	24	26	34	26	18	401
JICA	2	7	5	4	6	4	0	4	3	4	4	1	44
教育機関	12	6	7	7	9	3	6	7	6	2	0	2	67
国内団体	7	3	3	3	4	5	1	0	4	4	0	2	36
個人	18	15	17	23	23	16	17	11	10	19	14	8	191
自治体	1	3	2	0	4	1	0	0	0	2	3	2	18
制作会社・マスコミ	8	0	5	7	5	1	0	2	3	3	5	2	41
国外団体	0	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	1	4

図書資料室(海外移住)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
入室者数	186	194	241	165	204	169	180	147	156	223	161	153	2,179
(前年同比)	82%	97%	88%	62%	93%	91%	102%	89%	96%	124%	101%	53%	87%
一般	38	51	65	48	80	61	64	52	51	82	57	29	678
マスコミ等	5	4	8	11	15	8	14	9	7	8	5	9	103
JICA関係(業務)	86	74	105	94	100	92	92	81	74	100	90	60	1,048
JICA関係(研修)	57	65	63	12	9	8	10	5	24	33	9	55	350

資料受入件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
資料受入件数	177	117	146	54	52	52	365	38	50	38	45	129	1,263
(うち取得)	32	27	8	19	32	29	1	30	1	0	6	13	198
(うち購入)	107	0	2	1	0	1	0	0	43	38	30	83	305
(うち寄贈)	38	90	136	34	20	22	242	8	6	0	9	7	612
(うち移管)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
(うち既存資料)	0	0	0	0	0	0	122	0	0	0	0	26	148
所蔵登録総件数	39,047	39,164	39,310	39,364	39,416	39,468	39,833	39,871	39,921	39,959	40,004	40,133	

移住申込書整理	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
ファイル解体	55	62	95	0	25	18	252	75	172	141	105	43	1,043
データシート作成	55	62	95	0	0	0	252	370	0	0	418	0	1,252
挿入作業	55	62	95	0	0	0	252	370	0	0	418	0	1,252
データシート記入	68	55	43	111	39	0	295	146	52	155	143	85	1,192
スキャン(件数)	279	147	91	72	87	191	0	0	0	0	70	191	1,128
スキャン(画像ファイル数)	3,996	3,629	4,372	4,033	4,156	6,177	0	0	0	0	1,226	2,926	30,515

webページアクセス	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	12,614	11,885	14,780	10,936	11,659	10,997	10,006	10,714	10,454	11,319	10,916	10,347	136,627
(前年同比)	123%	96%	122%	89%	87%	80%	63%	78%	72%	74%	76%	70%	85%
Pages(利用数)	37,453	42,946	46,175	36,689	39,156	40,261	49,386	51,726	41,768	36,962	39,693	36,721	498,936
Files(情報提供数)	91,500	94,600	100,912	100,442	116,668	100,696	93,812	99,785	91,788	97,934	108,367	88,855	1,185,359

情報検索アクセス数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年度計
Visits(訪問者数)	682	824	616	671	552	668	651	614	563	676	645	274	7,436
(前年同比)	45%	46%	45%	57%	52%	74%	71%	73%	34%	37%	88%	34%	52%
検索件数	1,271	807	1,266	801	713	1,169	1,179	685	810	838	437	383	10,359
(前年同比)	84%	55%	96%	75%	71%	84%	96%	68%	77%	67%	52%	24%	70%

2) 海外移住資料館関連グッズ販売の実績

平成 21 年度より、資料館が所有する資料を活用し、絵葉書 10 種を製作・販売しているが、平成 22 年度には新たにストラップと移住船模型を追加し販売を開始した。

	平成 21 年度	平成 22 年度	合計
絵はがき（10 種）※1	284	236	520
ストラップ（オリジナル・十二支）※2	—	375	375
移住船模型※3	—	9	9

※1：絵はがきは、平成 21 年 10 月 1 日より販売開始。

※2：ストラップは、平成 22 年 7 月 15 日より販売開始。収益はエクアドル国マンタ市託児所の子どもの食事代として寄付。

※3：移住船模型は、平成 22 年 10 月 1 日より販売開始。

3) 地方自治体が行う多文化共生社会の実現に向けた取組への協力

今年度初の試みとして、横浜市鶴見区役所主催の職員研修「つるみ多文化バリアフリー講座『南米系移民の歴史』」への協力として、JICA 横浜で研修会場を提供し、講義と海外移住資料館のガイドツアーを行った。

参加人数は 33 名で、窓口対応者の他、税務や消防担当等、地方行政の様々な分野から参加を得られた。

同区は、中国・韓国籍の人々に加え、南米系日系人の集住地域でもあり、区役所職員は、窓口対応その他の住民サービス提供の場面で、南米系日系人に直接対応する機会がある。一方、何故南米に日本人が移住し、またその子孫が今、日本に居るのかという背景事情を多くの職員が知らない、との問題認識があり、また、現在の生活上の問題についての理解も促進する必要があるとして、この研修が企画された。

多文化共生社会に向けた積極的な取り組みを行っている自治体との連携であり、参加者の目的意識が高かったこともあり、効果的な事例となった。

JICA 横浜 海外移住資料館 館報
平成 22 年度

発 行：国際協力機構横浜国際センター
Japanese Overseas Migration Museum
海外移住資料館

発行年月：2011 年 6 月

問い合わせ先

JICA 横浜 海外移住資料館

〒231-0001 神奈川県横浜市中区新港 2-3-1

Tel 045-663-3257 / Fax 045-211-1781

Web : <http://www.jomm.jp> E-mail : info@jomm.jp

